上川井だより

9月号

平成　29 年 8 月 30 日
横浜市立上川井小学校
校　長　山田　アイ子

「　子どもも、大人も、ずっと可能性　」

学校長　　山田　アイ子

39 日間の長い夏休みが終わり、前期の後半が始まりました。今年の夏は、梅雨に戻ったかのような雨の日、じめじめした日が続きましたが、子どもたちの夏休みは、それぞれにたくさんの思い出ができたようです。

蝉の声が響き渡っていた校庭に、子どもたちの遊ぶ姿や元気な声が戻ってきて「背が伸びた」「大人っぽくなった」と感じたり、夏休み中の自由研究の作品を見ながら「あの子らしい」「意外！」と勝手に思ったりしながら、子どもたちにとって、夏休みも成長の時間だったことを感じました。

2 年生に転入児童が 1 名、全校児童 137 名で前期後半がスタートしました。137 名の子どもたちの中には勉強が得意な子もいれば、苦手な子もいます。運動が大好きな子もいれば、本が大好きな子もいます。粘り強く取り組める子もいれば、すぐに興味が違うところにいく子もいます。なんでも丁寧に、時間をかけて仕上げる子もいるし、さっさと手早くやって終わりにする子も…みんないろいろです。と、書きましたが、もしかしたら、それは、私の勝手な見方かもしれません。すぐに興味が違うところにいく子、言い換えれば、いろいろなことに興味を持てる子です。さっさと手早くやって終わらせる子、言い換えれば、細かいことに拘らずに、切り替えが上手な子でもあると思います。

「粘り強くないから、すぐに諦める性格だから、あの子には無理」「丁寧さがないから、うまくいかない」などと、自分勝手な決め付けで、子どもを見てはいないでしょうか。「〇〇だから、〇〇はできない」と決め付けることは、子どもの「可能性」を狭めてしまうと思います。

「努力してもできない目標を掲げて、目標を達成できなかった、クリアできなかった」と、子どもの努力が足りないと嘆くことがあっても、その子にあった目標設定をしなかった自分を嘆くことができなかった…それが、学級担任をしていた頃の私です。少しだけハードルを下げて、クリアしていくことで生まれる「自分にもできる」「やればできる」の気持ちが、どれだけ、次のステップに進む意欲を育てることになるか、気づきが足りなかったことを、今さらながら思います。

先日、ある会で、退職されてから 10 年以上になる先輩の先生にお会いする機会がありました。学級経営や児童理解に、とても大きな影響を受けた先生です。子どもの笑顔を思い浮かべながら、一人一人のよい面を話しながら、手立てを考える姿は、25 年以上も前のことなのに、とてもよく記憶に残っています。その先生が、「ある資格をとるために、勉強をしているのだけれど、覚えられなくて…」と笑顔で話されました。そして、「資格が欲しいのではなく、勉強したい」と、「この資格がこれからの自分の人生に役立つから…」と、そのようなことをおっしゃいました。それを聞き、幾つになっても、学ぶ喜びや学びたいと思う姿を素直に素敵だと思いました。

子どもには、たくさんの可能性がある、大人にも可能性がある、上川井小学校の可能性…それぞれの立場で、可能性を広げるための努力や支援をしたいと思います。そんな思いをもって、後半がスタートしました。